



新保 峰孝 議員

質問 高齢化に対応した交通対策について

バスのフリー乗降区間について、高齢化が進む中でどのように考え対応しているか。乗客の申込みによって運行するデマンド交通を導入すべきでないか。

高齢化の進む地域や高齢者の立場から、生活交通確保対策事業を改善すべきではないか。

▼市長答弁

フリー乗降区間は、現在38系統中24系統であるが、交通安全の確保に配慮し、今後も関係機関と検討していく。デマンド交通については、コミュニティバス、乗合タクシーの一部の便において予約制を導入している。

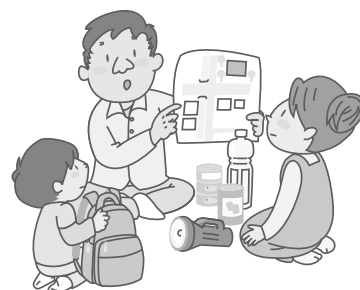
生活交通確保対策事業については、現在の利用実態や高齢化の進展から、高齢者の利用を促進する取組が必要であると考えている。

質問 原発事故対策について

避難計画についてはどうなっているか。避難者の受入れについてはどうか。また、柏崎・刈羽原発で過酷事故が起こった場合、糸魚川市の被害をどのように考えているか。

▼市長答弁

県内市町村では「新潟県広域避難の行動指針」に基づき、避難計画を検討している。避難者については、原子力災害時における新潟県広域避難のマッチングにより、当市に避難者を受け入れる体制となっている。当市は原発から50km以上離れていることから、現在のところ即時避難の必要はないとの方向が示されている。



伊藤 文博 議員

質問 糸魚川市における地方創生政策「まち・ひと・しごと総合戦略」について

総合戦略の実践で、どのような糸魚川市をつくるのか。「チーム糸魚川」に何を求め、どのように展開するのか。「チーム市役所」とはどのような姿を求めているのか。

また、産官学金労言の連携をどのように継続するのか。

▼市長答弁

稼ぐ産業の育成や、移住、Uターン促進により、地域の産業の担い手の確保を図るとともに、若者や女性の就労、結婚、子育ての希望をかなえ、子どもからお年寄りまで、みんなが健康で暮らしやすいまちづくりを推

進し、将来も持続可能な糸魚川市を目指していく。

チーム糸魚川は、定住人口の維持と交流人口の拡大により持続可能なまちづくりを目指すものであり、今回の総合戦略においても、共に考え一緒に行動する組織であると考えている。チーム市役所は、職員一人一人の意識改革により、チーム糸魚川の構成員として、職務を超えて庁内あるいは庁外の方と連携し、チーム糸魚川の目標実現に向けて、市民の皆さんと共に考え、行動することが必要と考えている。

産官学金労言の連携については、今回の総合戦略策定に当たって多くの団体の皆さんと懇談をし、意見、提案を頂いた。これを新たなスタートとして、引き続き情報提供や懇談の場を持ちながら、総合戦略の施策を協働で推進していく。

